

病院名: 地方独立行政法人 大阪府立病院機構 大阪府立母子保健総合医療センター

【小児がん拠点病院 現況報告書(様式)】

様式2 (指定) 問い合わせ先
 様式3 (指定) 病院基本情報
 様式3 (指定) 病院機能

【添付資料】

資料番号	様式	内容
別紙1	(指定)	がんセンターの体制及び開催実績
別紙2	(別様式)	長期にわたり診療するための具体的な診療体制
別紙3	(指定)	化学療法のレジメンを審査し、組織的に管理する委員会の組織・体制
別紙4	(指定)	緩和ケアチームの組織・体制
別紙5	(別様式)	緩和ケアチームへの患者紹介の手順
別紙6	(指定)	緩和ケアチームによるカンファレンスの開催実績
別紙7	(指定)	情報提供の方法
別紙8	(指定)	窓口情報
別紙9	(別様式)	地域の医療機関との連携協力体制
別紙10	(別様式)	小児がん患者及びその家族が語り合うための場の設定状況
別紙11	(指定)	小児がん患者及びその家族が語り合うための場
別紙12	(指定)	小児がん患者及びその家族を対象とした小児がんに関する勉強会等の開催実績
別紙13	(指定)	各種小児がんの情報
別紙14	(指定)	診療実績等
別紙15	(指定)	小児がんに関するカンファレンスや勉強会等の開催状況
別紙16	(指定)	小児がんに関する研修プログラムの状況
別紙17	(指定)	がん相談支援センターの体制
別紙18	(指定)	小児がん患者団体との連携協力
別紙19	(別様式)	臨床研究を支援する専門の部署の組織・体制
別紙20	(指定)	臨床研究を支援する専門の各部門のメンバー
別紙21	(指定)	臨床研究の実施状況
別紙22	(別様式)	長期滞在施設又はこれに準じる施設

様式3(病院基本情報)

病院名	地方独立行政法人 大阪府立病院機構 大阪府立母子保健総合医療			
よみがな	ちほうどくりつぎょうせいほうじん おおさかふりつびょういんきこう おおさかふりつぼしほけんそうごう			
所在地	大阪府和泉市室堂町840番地			
交通アクセス	最寄駅	泉北高速鉄道 光明池駅		
	最寄バス停			
	インターチェンジ			
電話(代表)	0725-56-1220			
FAX(代表)	0725-56-5682			
電子メール(代表)				
ホームページ	http://www.mch.pref.osaka.jp/			
開設	開設者	地方独立行政法人大阪府立病院機構 理事長 遠山正彌		
	開設年月日	2006	年	4
				月
				1
				日
面積	土地(m ²)	13142	m ²	建物(m ²)
				35941
				m ²
診療科	開設診療科数	20		
	診療科名(具体的に記載)	内科・精神科・神経内科・循環器科・小児科・整形外科・形成外科・眼科・脳神経外科・心臓血管外科・小児外科・泌尿器科・産科・婦人科・放射線科・耳鼻いんこう科・リハビリテーション科・矯正歯科・歯科口腔外科・麻酔科		
	外来診療受付時間	曜日	月～金	時間
		曜日		9時00分～17時30分
	外来診療時間	曜日	月～金	時間
		曜日		9時00分～17時30分
	休診日	土、日、祝日、年末年始		
	初診時の予約	地域医療連携室にてFAX予約		
病床数	総病床数	375	床	
小児がん拠点病院としてのメッセージ (200字以内)	当センターは、小児がん・血液疾患の診断、治療に病院全体を挙げて取り組んでいます(チーム医療)。複数診療科の関係者が週1回集まり、一人の患者さんについて診断・治療方針について話し合い、手術、抗がん剤を使う化学療法、最新鋭機器を用いて行う放射線治療、さらに骨髄移植に代表される造血幹細胞移植など、最先端の集学的治療に取り組んでいます。また、コメディカルスタッフは小児患者の専門家を多く配置しています。			

診療実績

平成24年度の実績

全入院患者数(延べ数)

小児がん入院患者数(延べ数)(※1)

緩和ケアチームが新規で診療を実施した小児がん症例数(※1)

セカンドオピニオンの対応を行った小児がん患者数(※1)

他施設から紹介され受け入れた小児がん患者数(※1)

小児がん患者の紹介を受けた医療機関数(※1)

小児がん患者の他施設への紹介患者数(※2)

小児がん患者を紹介した医療機関数(※2)

※1 18歳以下の診断例とする。

※2 診断時に18歳以下であった患者を算定するが、紹介時には18歳を超えていても構わない。

8504	人
316	人
13	人
25	人
59	人
43	機関
27	人
14	機関

がんに関する専門外来の名称

--

職員数

総数(事務職員を含む)

1095	人
人数	うち常勤(※)

医師	144	98
歯科医師	8	5
薬剤師	18	15
保健師	7	2
看護師	531	477
准看護師	1	1
理学療法士	4	4
作業療法士	2	2
視能訓練士	2	2
言語聴覚士	4	2
義肢装具士	0	0
診療放射線技師	16	16
臨床検査技師	37	25
衛生検査技師	0	0
臨床工学技士	5	5
管理栄養士	5	3

※常勤とは当該医療機関で定めている1週間の就業時間すべてを勤務している者をいい、正規・非正規は問わないものとする。ただし、当該医療機関で定めている就業時間が32時間に満たない場合は、常勤とはみなさない。

栄養士	0	0
社会福祉士	4	1
精神保健福祉士	1	1
介護福祉士	0	0
保育士	15	0

人数 うち常勤(※)

日本小児血液・がん学会 暫定指導医	4	4
日本小児血液・がん学会 認定外科医	0	0
日本小児外科学会 専門医	3	3
日本小児外科学会 指導医	2	2
日本小児科学会小児科 専門医	36	29
日本小児神経学会 小児神経専門医	3	3
日本病理学会 病理専門医	1	1
日本臨床腫瘍学会 がん薬物療法専門医	0	0
がん治療認定医機構 がん治療認定医	5	5
がん治療認定医機構 暫定教育医	1	1
日本放射線腫瘍学会 認定医	0	0
日本看護協会 がん看護専門看護師	0	0
日本看護協会 小児看護専門看護師	2	2
日本看護協会 がん化学療法認定看護師	0	0
日本看護協会 緩和ケア認定看護師	0	0
日本看護協会 がん性疼痛認定看護師	0	0
日本病院薬剤師会 がん薬物療法認定薬剤師	0	0
日本病院薬剤師会 がん専門薬剤師	0	0
日本医療薬学会 がん専門薬剤師	1	1
日本臨床細胞学会 細胞検査士	0	0
日本医学放射線学会 医学物理士	0	0
日本放射線治療専門放射線技師認定機構 放射線治療専門放射線技師	1	1
日本臨床心理士資格認定協会 臨床心理士	16	4
チャイルドライフスペシャリスト	0	0
ホスピタルプレイスペシャリスト	2	1

※常勤とは当該医療機関で定めている1週間の就業時間すべてを勤務している者をいい、正規・非正規は問わないものとする。ただし、当該医療機関で定めている就業時間が32時間に満たない場合は、常勤とはみなさない。

病院名: 地方独立行政法人 大阪府立病院機構 大阪府立母子保健総合医療

1 診療体制 (1) 診療機能 ① 集学的治療の提供体制及び標準的治療等の提供	A : 必須 B : 望ましい - : 参考	はい: 記載内容を満たしている いいえ: 記載内容を満たしていない
ア 小児に多いがん、再発したがん、治療の難しいがん及びその他各医療機関が専門とする小児がんについて、手術療法、放射線療法及び化学療法を効果的に組み合わせた集学的治療及び緩和ケアを提供する体制を有するとともに、各学会の診療ガイドラインに準ずる標準的治療(以下「標準的治療」という。)等小児がん患者の状態に応じた適切な治療を提供すること。	A	はい (はい・いいえ)
イ 小児がん患者の病態に応じたより適切ながん医療を提供できるよう、カンサーボード(手術療法、放射線療法及び化学療法に携わる専門的な知識及び技能を有する医師その他の専門を異にする医療従事者等によるがん患者の症状、状態及び治療方針等を意見交換・共有・検討・確認等するためのカンファレンスをいう。以下同じ。)を設置し、定期的に関催すること。	A	はい (はい・いいえ)
キャンサーボードの体制及び開催実績について別紙1に記載すること。		
ウ 外来で長期にわたり診療できる体制を整備すること。さらに、地域の医療機関等との連携協力体制を構築すること等により、小児がん患者に対して、成人後も含めて、長期にわたり診療を提供できる体制を構築していること。	A	はい (はい・いいえ)
長期フォローアップ外来(小児がん経験者の健康管理、晩期合併症の予防、疾病の早期発見・早期治療のための外来)の有無。	-	はい (はい・いいえ)
長期にわたり診療するための具体的な診療体制について別紙2に記載すること。		
エ 急変時等の緊急時に小児がん患者が入院できる体制を確保すること。	A	はい (はい・いいえ)
② 化学療法の提供体制		
化学療法のレジメン(治療内容をいう。)を審査し、組織的に管理する委員会を設置すること。なお、当該委員会は、必要に応じて、カンサーボードと連携協力すること。	A	はい (はい・いいえ)
化学療法のレジメンを審査し、組織的に管理する委員会の組織・体制について別紙3に記載すること。		
③ 緩和ケアの提供体制		
ア (2)の①のウに規定する医師及び(2)の②のウに規定する看護師等を構成員とする小児の緩和ケアチームを整備し、当該緩和ケアチームを組織上明確に位置付けるとともに、小児がん患者に対し適切な緩和ケアを提供すること。	A	はい (はい・いいえ)
緩和ケアチームの組織・体制について別紙4に記載すること。		
緩和ケアチームへの患者紹介の手順について別紙5に記載すること。		
イ 外来において専門的な小児の緩和ケアを提供できる体制を整備することが望ましい。	B	いいえ (はい・いいえ)
ウ アに規定する緩和ケアチーム並びに必要に応じて主治医及び看護師等が参加する症状緩和に関するカンファレンスを定期的に関催すること。	A	はい (はい・いいえ)
緩和ケアチームによるカンファレンスの開催状況について別紙6に記載すること。		
エ 院内の見やすい場所にアに規定する緩和ケアチームによる診察が受けられる旨の掲示をするなど、小児がん患者及びその家族等に対し必要な情報提供を行うこと。	A	はい (はい・いいえ)
緩和ケアチームの情報提供の方法について別紙7に記載すること。窓口情報について別紙8に記載すること。		
オ かかりつけ医の協力・連携を得て、主治医及び看護師がアに規定する緩和ケアチームと共に、退院後の居宅における緩和ケアに関する療養上必要な説明及び指導を行うこと。	A	はい (はい・いいえ)
カ 小児の緩和ケアに関する要請及び相談に関する受付窓口を設けるなど、地域の医療機関及び在宅療養支援診療所等との連携協力体制を整備することが望ましい。	B	いいえ (はい・いいえ)

④ 病病連携・病診連携の協力体制		
ア 地域の医療機関から紹介された小児がん患者の受入れを行うこと。また、小児がん患者の状態に応じ、地域の医療機関へ小児がん患者の紹介を行うこと。	A	はい (はい・いいえ)
地域の医療機関との連携協力体制について別紙9に記載すること。		
イ 小児がんの病理診断又は画像診断に関する依頼、手術療法、放射線療法又は化学療法に関する相談など、地域の医療機関の医師と相互に診断及び治療に関する連携協力体制を整備すること。	A	はい (はい・いいえ)
ウ 患者の状況に応じて、地域連携クリティカルパス(拠点病院と地域の医療機関等が作成する診療役割分担表、共同診療計画表及び患者用診療計画表から構成される小児がん患者に対する診療の全体像を体系化した表をいう。以下同じ。)を整備することが望ましい。	B	いいえ (はい・いいえ)
エ ウに規定する地域連携クリティカルパスを活用するなど、地域の医療機関等と協力し、必要に応じて、退院時に当該小児がん患者に関する共同の診療計画の作成等を行うことが望ましい。	B	いいえ (はい・いいえ)
⑤ セカンドオピニオンの提示体制		
小児がんについて、手術療法、放射線療法又は化学療法に携わる専門的な知識及び技能を有する医師によるセカンドオピニオン(診断及び治療法について、主治医以外の第三者の医師が提示する医療上の意見をいう。以下同じ。)を提示する体制を有すること。	A	はい (はい・いいえ)
セカンドオピニオンが受けられることの情報提供の方法について別紙7に記載すること。窓口情報について別紙8に記載すること。		
(2) 診療従事者		
① 専門的な知識及び技能を有する医師の配置		
ア 放射線療法に携わる専門的な知識及び技能を有する医師を1人以上配置すること。	A	はい (はい・いいえ)
放射線療法に携わる専門的な知識及び技能を有する医師の数。	-	2 人
うち常勤の数。	-	2 人
イ 専任(当該療法の実施を専ら担当していることをいう。この場合において、「専ら担当している」とは、担当者となっていればよいものとし、その他診療を兼任していても差し支えないものとする。ただし、その就業時間の少なくとも5割以上、当該療法に従事している必要があるものとする。以下同じ。)の化学療法に携わる専門的な知識及び技能を有する医師を1人以上配置すること。なお、当該医師については、原則として常勤であること。また、専従(当該療法の実施日において、当該療法に専ら従事していることをいう。この場合において、「専ら従事している」とは、その就業時間の少なくとも8割以上、当該療法に従事していることをいう。以下同じ。)であることが望ましい。	A	はい (はい・いいえ)
専任の化学療法に携わる専門的な知識及び技能を有する医師の数。	-	8 人
うち常勤の数。	-	5 人
うち専従の数。	-	8 人
ウ (1)の③のアに規定する緩和ケアチームに、身体症状の緩和に携わる専門的な知識及び技能を有する医師並びに精神症状の緩和に携わる専門的な知識及び技能を有する医師をそれぞれ1人以上配置すること。なお、当該各医師については、常勤であることが望ましい。	A	はい (はい・いいえ)
エ 専従の病理診断に携わる医師を1人以上配置すること。なお、当該医師については、原則として常勤であること。	A	はい (はい・いいえ)
専従の病理診断に携わる医師の数。	-	2 人
うち常勤の数。	-	2 人

② 専門的な知識及び技能を有するコメディカルスタッフの配置	
ア 放射線療法に携わる診療放射線技師を1人以上配置すること。放射線療法における機器の精度管理、照射計画の検証、照射計画補助作業等に携わる技術者等を1人以上配置すること。	A はい (はい・いいえ)
放射線療法に携わる診療放射線技師の数。	— 2 人
うち常勤の数。	— 2 人
放射線療法における機器の精度管理、照射計画の検証、照射計画補助作業等に携わる技術者等の数。	— 2 人
うち常勤の数。	— 2 人
イ 化学療法に携わる専門的な知識及び技能を有する常勤の薬剤師を1人以上配置すること。	A はい (はい・いいえ)
化学療法に携わる専門的な知識及び技能を有する常勤の薬剤師の数。	— 5 人
ウ (1)の③のアに規定する緩和ケアチームに、緩和ケアに携わる専門的な知識及び技能を有する常勤の看護師を1人以上配置すること。	A はい (はい・いいえ)
(1)の③のアに規定する緩和ケアチームに協力する薬剤師及び医療心理に携わる者をそれぞれ1人以上配置することが望ましい。	B はい (はい・いいえ)
エ 細胞診断に関する業務に携わる者を1人以上配置することが望ましい。	B はい (はい・いいえ)
オ 小児看護やがん看護に関する専門的な知識及び技能を有する専門看護師又は認定看護師を配置していることが望ましい。	B はい (はい・いいえ)
カ チャイルドライフスペシャリスト、小児科領域に関する専門的知識を有する臨床心理士又は社会福祉士のような療養を支援する担当者を配置していることが望ましい。	B はい (はい・いいえ)
③ その他	
ア 小児がん患者の状態に応じたより適切ながん医療を提供できるよう、各診療科の医師における情報交換・連携を恒常的に推進する観点から、各診療科を包含する居室等を設置することが望ましい。	B はい (はい・いいえ)
イ 拠点病院の長は、当該拠点病院において小児がん診療に携わる専門的な知識及び技能を有する医師の専門性及び活動実績等を定期的に評価し、当該医師がその専門性を十分に発揮できる体制を整備すること。なお、当該評価に当たっては、手術療法・放射線療法・化学療法の治療件数(放射線療法・化学療法については、入院・外来ごとに評価することが望ましい。)、紹介されたがん患者数その他診療連携の実績、論文の発表実績、研修会・日常診療等を通じた指導実績、研修会・学会等への参加実績等を参考とすること。	A はい (はい・いいえ)
学会・教育・研修活動のための予算が計上されている。	— はい (はい・いいえ)
論文発表、学会発表等を病院業績集等で報告している。	— はい (はい・いいえ)
(3) 医療施設	
放射線療法に関する機器を設置すること。ただし、当該機器は、リニアックなど、体外照射を行うための機器であること。	A はい (はい・いいえ)
集中治療室を設置することが望ましい。	B はい (はい・いいえ)
集中治療室を設置している場合、一般向けの特定集中治療室(ICU)の数	— 0 床
集中治療室を設置している場合、小児専門の特定集中治療室(PICU)の数	— 8 床
小児がん患者及びその家族が心の悩みや体験等を語り合うための場所及びその機会を設けることが望ましい。	B はい (はい・いいえ)
小児がん患者及びその家族が語り合うための場の設定状況について別紙10に記載すること。語り合うための場の一覧を別紙11に記載すること。小児がん患者及びその家族を対象とした小児がんに関する勉強会等の開催実績を別紙12に記載すること。	
敷地内禁煙の実施等のたばこ対策に積極的に取り組むこと。	A はい (はい・いいえ)

(4) 診療実績	
領域別の小児がん診療機能、診療実績及び医療従事者の専門とする分野・経歴などを、わかりやすく情報提供すること。	A <input checked="" type="checkbox"/> はい (はい・いいえ)
領域別の診療機能、診療実績及び医療従事者の専門とする分野・経歴などの情報提供の方法について別紙7に記載すること。	
診療実績等について別紙13及び別紙14に記載すること。	
固形腫瘍について年間新規症例数が10例程度以上(うち脳・脊髄腫瘍が2例程度以上)であること。(18歳以下の初発診療例を対象とする(平成24年))	A <input checked="" type="checkbox"/> はい (はい・いいえ)
造血器腫瘍について、年間新規症例数が10例程度以上であること。(18歳以下の初発診療例を対象とする(平成24年))	A <input checked="" type="checkbox"/> はい (はい・いいえ)
(5) その他	
① 特定非営利活動法人日本小児血液・がん学会が認定する「日本小児血液・がん専門医研修施設」及び特定非営利活動法人日本小児外科学会が認定する「認定施設」であること。	A <input checked="" type="checkbox"/> はい (はい・いいえ)
② 公益財団法人骨髄移植推進財団が認定する移植認定病院又は日本さい帯血バンクネットワークに登録している移植医療機関であること。	A <input checked="" type="checkbox"/> はい (はい・いいえ)
公益財団法人骨髄移植推進財団の移植認定病院である。	- <input type="checkbox"/> はい (はい・いいえ)
日本さい帯血バンクネットワークの移植医療機関の登録施設である。	- <input type="checkbox"/> はい (はい・いいえ)
2 研修の実施体制	
地域の医療機関等の医療従事者も参加する小児がんの診療、相談支援、がん登録及び臨床試験等に関するカンファレンスや勉強会等を毎年定期的に行うこと。	A <input checked="" type="checkbox"/> はい (はい・いいえ)
小児がんに関するカンファレンスや勉強会等の開催状況について別紙15に記載すること。	
小児がんに関する研修プログラムの状況について別紙16に記載すること。	
3 情報の収集提供体制	
(1) がん相談支援センター	
①及び②に掲げる相談支援を行う機能を有する部門(以下「がん相談支援センター」という。なお、がん相談支援センター以外の名称を用いても差し支えないが、その場合には、がん医療に関する相談支援を行うことが分かる名称を用いることが望ましい。)を設置し、当該部門において、アからキまでに掲げる業務を行うこと。なお、院内の見やすい場所にがん相談支援センターによる相談支援を受けられる旨の掲示をするなど、がん相談支援センターについて積極的に広報すること。	A <input checked="" type="checkbox"/> はい (はい・いいえ)
がん相談支援センターの情報提供の方法について別紙7に記載すること。がん相談支援センターの窓口情報について別紙8に記載すること。	
がん相談支援センターの体制について別紙17に記載すること。	
ア 小児がんの病態、標準的治療法等小児がん診療等に関する一般的な情報の提供。	A <input checked="" type="checkbox"/> はい (はい・いいえ)
イ 領域別の小児がん診療機能、診療実績及び医療従事者の専門とする分野・経歴など、地域の医療機関及び医療従事者に関する情報の収集、提供。	A <input checked="" type="checkbox"/> はい (はい・いいえ)
ウ セカンドオピニオンの提示が可能な医師の紹介。	A <input checked="" type="checkbox"/> はい (はい・いいえ)
エ 小児がん患者の発育、教育及び療養上の相談。	A <input checked="" type="checkbox"/> はい (はい・いいえ)
オ 地域の医療機関及び医療従事者等における小児がん診療の連携協力体制の事例に関する情報の収集、提供	A <input checked="" type="checkbox"/> はい (はい・いいえ)
カ 必要に応じて、地域の医療機関に対して相談支援に関する支援を行うこと。	A <input checked="" type="checkbox"/> はい (はい・いいえ)
キ その他相談支援に関すること。	A <input checked="" type="checkbox"/> はい (はい・いいえ)
① 国立がん研究センターがん対策情報センター(以下「がん対策情報センター」という。)による研修を修了した小児がん患者及びその家族等の抱える問題に対応できる専任の相談支援に携わる者を1人以上配置すること。(平成26年9月7日までに配置する予定を含む。)	A <input checked="" type="checkbox"/> はい (はい・いいえ)
② 院内及び地域の医療従事者の協力を得て、院内外の小児がん患者及びその家族並びに地域の住民及び医療機関等からの相談等に対応する体制を整備すること。	A <input checked="" type="checkbox"/> はい (はい・いいえ)
相談支援に関し十分な経験を有する小児がん患者団体との連携協力体制の構築に積極的に取り組むことが望ましい。	B <input type="checkbox"/> はい (はい・いいえ)
小児がん患者団体との連携協力について別紙18に記載すること。	

(2)院内がん登録	
① がん対策情報センターによる研修を受講したがん登録の実務を担う者を1人以上配置すること。(平成26年9月7日までに配置する予定を含む。)	A はい (はい・いいえ)
② 拠点病院の所在する都道府県が行う地域がん登録事業に積極的に協力すること。	A はい (はい・いいえ)
4 臨床研究に関すること	
(1) 進行中の臨床研究(治験を除く。以下同じ。)の概要及び過去の臨床研究の成果を広報すること。	A はい (はい・いいえ)
臨床研究の情報提供の方法について別紙7に記載すること。窓口情報について別紙8に記載すること。	
(2) 参加中の治験について、その対象であるがんの種類及び薬剤名等を広報することが望ましい。	B はい (はい・いいえ)
治験の情報提供の方法について別紙7に記載すること。窓口情報について別紙8に記載すること。	
(3) 臨床研究を支援する専門の部署を設置していることが望ましい。	B はい (はい・いいえ)
設置していない場合は設置の予定時期。	-
設置している場合は、臨床研究を支援する専門の部署の組織・体制について別紙19に記載すること。臨床研究を支援する専門の各部門のメンバーについて別紙20に記載すること。	
(4) 臨床研究コーディネーターを配置することが望ましい。	B はい (はい・いいえ)
臨床研究コーディネーターを配置している場合その数。	1 人
(5) 地域の医療機関と連携し、地域の臨床研究を推進すること。	A はい (はい・いいえ)
臨床研究(治験を含む)の実施状況について別紙21に記載すること。	
5 患者の発育及び教育等に関して必要な環境整備	
(1) 保育士を配置していること。	A はい (はい・いいえ)
(2) 病弱の特別支援学校又は小中学校の病弱・身体虚弱の特別支援学級による教育支援(特別支援学校による訪問教育を含む。)が行われていること。	A はい (はい・いいえ)
特別支援学校(養護学校)の分校・分教室がある。	- はい (はい・いいえ)
特別支援学校(養護学校)による訪問教育を行っている。	- はい (はい・いいえ)
病院内に特別支援学級が設置されている。	- はい (はい・いいえ)
(3) 退院時の復園及び復学支援が行われていること。	A はい (はい・いいえ)
(4) 子どもの発達段階に応じた遊戯室等を設置していること。	A はい (はい・いいえ)
AYA世代(思春期及び若年成人)のための場所を確保している。	- はい (はい・いいえ)
(5) 家族等が利用できる長期滞在施設又はこれに準じる施設が整備されていること。	A はい (はい・いいえ)
部屋数。	- 6 部屋
長期滞在施設が自施設内に設置されている。	- はい (はい・いいえ)
長期滞在施設又はこれに準じる施設について別紙22に記載すること。	
(6) 家族等の希望により、24時間面会又は患者の付き添いのできる体制を構築していること。	A はい (はい・いいえ)
(7) 患者のきょうだいに対する保育の体制整備を行っていることが望ましい。	B はい (はい・いいえ)

別紙1 キャンサーボードの体制及び開催実績

病院名: 地方独立行政法人 大阪府立病院機構 大阪府立母子保

開催されたキャンサーボードの総件数: 20

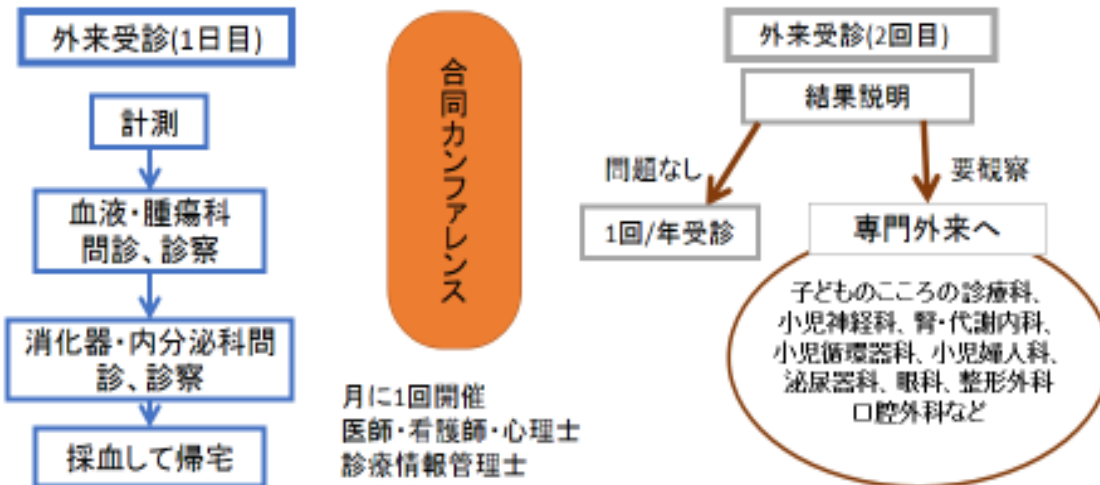
(平成25年7月～11月に開催されたキャンサーボードについて記載すること。個人情報に記載しないよう注意すること。)

キャンサーボード名		メンバーの専門性・職種	開催日又は開催頻度	内容
例	小児外科カンファレンス	小児科部長、小児科医、放射線治療医、小児看護専門看護師、薬剤師		新規治療開始患者の治療方針の決定や経過報告
1	Tumor Board	血液・腫瘍科部長、血液・腫瘍科医、小児外科部長代行、小児科医、検査科部長、病理医、放射線科部長	2013.07.04	両側網膜芽細胞腫の治療方針、眼窩腫瘍に対する病理診断、治療方針
2	Tumor Board	血液・腫瘍科部長、血液・腫瘍科医、小児外科部長代行、小児科医、検査科部長、病理医、放射線科部長	2013.07.18	Horner兆候を呈す神経由来腫瘍疑いの画像所見・治療方針、川崎病に合併した両股関節炎の画像所見、踵骨に発生したEwing肉腫の画像所見、膀胱腫瘍に対する治療方針
3	Tumor Board	血液・腫瘍科部長、血液・腫瘍科医、小児外科部長代行、小児科医、検査科部長、病理医、放射線科部長	2013.07.25	横紋筋肉腫2例に対する画像所見・病理所見・治療方針
4	Tumor Board	血液・腫瘍科部長、血液・腫瘍科医、小児外科部長代行、小児科医、検査科部長、病理医、放射線科部長	2013.08.13	他院からのKasabach-Merritt症候群に対する治療方針の相談
5	Tumor Board	血液・腫瘍科部長、血液・腫瘍科医、小児外科部長代行、小児科医、検査科部長、病理医、放射線科部長	2013.08.15	眼窩に発生したリンパ腫の治療経過報告と治療方針、急性骨髄性白血病治療後に発生した胆石に対する治療方針、Kasabach-Merritt症候群に対する治療方針
6	Tumor Board	血液・腫瘍科部長、血液・腫瘍科医、小児外科部長代行、小児科医、検査科部長、病理医、放射線科部長	2013.08.22	慢性活動性EBウイルス感染症に合併した薬剤性睪炎後睪嚢胞の治療方針、膀胱原発横紋筋肉腫の治療方針
7	Tumor Board	血液・腫瘍科部長、血液・腫瘍科医、小児外科部長代行、小児科医、検査科部長、病理医、放射線科部長	2013.08.23	肺転移を合併した仙尾部腫瘍の治療方針、神経症状を呈する神経芽腫疑い症例の治療方針
8	Tumor Board	血液・腫瘍科部長、血液・腫瘍科医、小児外科部長代行、小児科医、検査科部長、病理医、放射線科部長	2013.08.29	Horner兆候を呈す神経由来腫瘍疑いの画像所見・治療方針、他大学から悪性リンパ腫再発症例および横紋筋肉腫疑い症例の治療方針の相談
9	Tumor Board	血液・腫瘍科部長、血液・腫瘍科医、小児外科部長代行、小児科医、検査科部長、病理医、放射線科部長	2013.09.05	踵骨に発生したEwing肉腫の画像所見・治療方針
10	Tumor Board	血液・腫瘍科部長、血液・腫瘍科医、小児外科部長代行、小児科医、検査科部長、病理医、放射線科部長	2013.09.12	上衣腫再発の画像所見・治療方針、神経症状を呈する神経芽腫疑い症例の画像所見・病理所見・治療方針

(自施設内における長期フォローアップの体制、他施設との連携による長期フォローアップの体制等について具体的に記載すること。必要に応じて図を用いても構いません。1枚におさめること。)

長期フォローアップ外来の流れ

治療終了から5年経過した患者を対象に長期フォローアップ外来に移行する。



* 長期フォローアップ外来は、血液・腫瘍科、消化器・内分泌科が協働で行っている。

* 他府県の患者の治療終了後フォローは地域の医療機関に依頼し、年1回の当センター長期フォローアップ外来で評価しフィードバックしている。

* 晚期合併症発生時は専門外来で対応している。

* 晚期合併症によっては(生活習慣病など)、成人後必要に応じて内科専門外来を紹介している。

別紙3 化学療法レジメンを審査し、組織的に管理する委員会の組織・体制

病院名: #REF!

開催された委員会の総件数: 3

(化学療法レジメンを審査し、組織的に管理する委員会の名称、開催頻度、委員会のメンバーを記載すること。個人情報に記載しないよう注意すること。)

委員会の名称	がん化学療法レジメン登録審査委員会	
委員会の開催頻度	基本的に2ヵ月ごと(昨年は1回休会)	
委員会のメンバー	職種	役職
例	医師、看護師、薬剤師	腫瘍内科センター長、薬剤部長、副看護部長
1	医師	小児外科副部長
2	医師	血液・腫瘍科副部長
3	医師	放射線科主任部長
4	医師	検査科主任部長
5	医師	治験推進室室長
6	看護師	副看護部長
7	薬剤師	主査
8	薬剤師	技師
9	診療情報管理士	技師
10		

別紙4 緩和ケアチームの組織・体制

病院名： 地方独立行政法人 大阪府立病院機構 大阪府

緩和ケアチームの総人数： 6

(緩和ケアチームの名称、メンバー等を記載すること。個人情報に記載しないよう注意すること。なお、身体症状の緩和に携わる専門的な知識及び技能を有する医師(常勤であることが望ましい)、精神症状の緩和に携わる専門的な知識及び技能を有する医師(常勤であることが望ましい)、緩和ケアに携わる専門的な知識及び技能を有する常勤の看護師は指定要件に含まれることに留意して記載すること。)

緩和ケアチームの名称		QOLサポートチーム(QST)		
職種		常勤／非常勤	専門分野	資格等
例	医師、看護師、薬剤師		麻酔科、精神科、がん看護	緩和ケアに関するものを3つまで記載してください。
1	医師	常勤	血液内科, 腫瘍内科, 小児科	
2	医師	常勤	精神科, 小児科	
3	看護師	常勤	がん看護	
4	看護師	常勤	がん看護	
5	薬剤師	常勤	小児	
6	臨床心理士	非常勤	小児心理	
7				
8				
9				
10				

病院名: 大阪府立母子保健総合医療センター

(緩和ケアチームへの患者紹介の手順について記載すること。必要に応じて図を用いても構いません。1枚におさめること。)

緩和ケアチームへの患者紹介の手順の概要

1. 依頼者(担当看護師や主治医)が「QSTコンサルテーションシート」(右図参照)を可能な範囲で記入し、チームがこれを受け取ることでよりコンサルト開始とする。
2. QST各メンバーは「QSTコンサルテーションシート」や電子カルテからの情報収集をする。
3. 受け持ち看護師や主治医にも依頼内容やニーズの確認をする。
4. 患者や家族に、QSTについての説明を行う。
5. その上で患者や家族に直接のアセスメントを行い、緩和ケアのニーズを確認する。
6. QSTの介入方針に関して主治医や看護師など病棟スタッフから意見を聞く。
7. 「緩和ケア実施計画書」を作成する。
8. 「緩和ケア実施計画書」沿って介入方針を患者や家族に説明する。
9. QST介入の効果については、STAS-Jによる評価を中心に検討し、必要に応じて計画を修正する。

別紙6 緩和ケアチームによるカンファレンスの開催実績

病院名: 地方独立行政法人 大阪府立病院機構 大阪府立母子保健総合医療

開催されたカンファレンスの総件数: 12

(平成25年7月～11月に開催された緩和ケアチームによるカンファレンスの開催実績について記載すること。個人情報に記載しないよう注意すること。)

開催日	カンファレンスの参加者の専門分野・職種(緩和ケアチームのメンバーを除く) 例)小児科部長、小児科医、放射線治療医、小児看護専門看護師、薬剤師	検討した小児がん患者 症例数
1	7月10日 緩和ケアチームメンバーのみ	1
2	7月22日 血液腫瘍科医師 3人, 精神科医師 1人, 病棟保育士 2人, 栄養士 1人, 病棟看護師 2人, 外来看護師 1人	1
3	7月23日 緩和ケアチームメンバーのみ	0
4	8月14日 緩和ケアチームメンバーのみ	0
5	8月26日 血液腫瘍科医師 3人, 精神科医師 1人, 臨床心理士 1人, 病棟保育士 2人, 院内学級教諭 2人, 病棟看護師 2人, 外来看護師 1人	1
6	8月28日 緩和ケアチームメンバーのみ	0
7	9月11日 緩和ケアチームメンバーのみ	1
8	9月30日 血液腫瘍科医師 1人, 臨床心理士 1人, 病棟保育士 2人, 院内学級教諭 2人, 病棟看護師 2人, 外来看護師 1人	1
9	10月8日 緩和ケアチームメンバーのみ 11月13日 緩和ケアチームメンバーのみ	0 2
10	11月25日 血液腫瘍科医師 3人, 病棟保育士 1人, 院内学級教諭 3人, ホスピタルプレイ士 1人, 病棟看護師 2人, 外来看護師 1人 11月27日 緩和ケアチームメンバーのみ	1 1

病院名: 地方独立行政法人 大阪府立病院機構 大阪府立母子保健総合医療

緩和ケアチームの情報提供の方法	実施している場合 ○を記載		具体的に
院内の見やすい場所に掲示している	○	その他の方法で 情報提供している	
院内誌、チラシ等で情報提供している	○		
ホームページに掲載している	×		
アドレス			
地域の広報誌等で情報提供している	○		
セカンドオピニオンの情報提供の方法	実施している場合 ○を記載		具体的に
院内の見やすい場所に掲示している	○	その他の方法で 情報提供している	
院内誌、チラシ等で情報提供している	○		
ホームページに掲載している	○		
アドレス	http://www.mch.pref.osaka.jp/hospital/services/second_opinion/index.html		
地域の広報誌等で情報提供している	○		
診療機能・診療実績等の情報提供の方法	実施している場合 ○を記載		具体的に
院内の見やすい場所に掲示している	○	その他の方法で 情報提供している	
院内誌、チラシ等で情報提供している	○		
ホームページに掲載している	○		
アドレス	http://www.mch.pref.osaka.jp/hospital/department/index.html		
地域の広報誌等で情報提供している	○		

がん相談支援センターの情報提供の方法		実施している場合 ○を記載		具体的に
院内の見やすい場所に掲示している		○	その他の方法で 情報提供している	
院内誌、チラシ等で情報提供している		○		
ホームページに掲載している		○		
アドレス	http://www.mch.pref.osaka.jp/hospital/services/soudan/index.html			
地域の広報誌等で情報提供している		○		
臨床研究の情報提供の方法		実施している場合 ○を記載		具体的に
院内の見やすい場所に掲示している		○	その他の方法で 情報提供している	<p><臨床研究の情報提供方法の内容> 外来、各病棟で研究の実施について理解を求める掲示をしている。 年報には治験内容の情報を公開している。 ホームページには臨床研究の概要、治験審査の記録等を掲載している。</p>
院内誌、チラシ等で情報提供している		○		
ホームページに掲載している		○		
アドレス	http://www.mch.pref.osaka.jp/center/activities/rinri.html			
地域の広報誌等で情報提供している		×		
治験の情報提供の方法		実施している場合 ○を記載		具体的に
院内の見やすい場所に掲示している		○	その他の方法で 情報提供している	大阪府立病院機構治験ネットワーク、小児治験ネットワークなど外部サイトとリンクすることにより、情報提供している。
院内誌、チラシ等で情報提供している		○		
ホームページに掲載している		○		
アドレス	http://www.mch.pref.osaka.jp/hospital/department/category/chiken/framepage51.html			
地域の広報誌等で情報提供している		○		

病院名: 地方独立行政法人 大阪府立病院機構 大阪府立

緩和ケア窓口情報

外来の設置状況	設置されていません (設置されています・設置されていません)			
外来の名称				
診療曜日・時間	曜日		時間	時 分～ 時 分
	曜日		時間	時 分～ 時 分
担当診療科名				
他の病院で診療中である患者さんの受診	受診できません (受診できます・受診できません)			
診療の内容・特色				
問い合わせ窓口	窓口がありません (窓口があります・窓口がありません)			
窓口名				
メッセージ (200字以内)				
病棟の設置状況	(設置されています・設置されていません)			

セカンドオピニオン窓口情報

問い合わせ窓口	窓口があります (窓口があります・窓口がありません)			
窓口名	地域医療連携室			
電話番号	代表	0725-56-1220	内線	2137 直通 0725-56-9890
対応時間	曜日	月～金	時間	9時 00分～ 17時 00分
	曜日		時間	時 分～ 時 分
セカンドオピニオンに対応している病名	口腔外科:口唇裂・口蓋裂、言語治療 産科:ハイリスク妊娠、分娩 血液・腫瘍科:小児血液・腫瘍(白血病、小児がん)、EBウイルス関連疾患(慢性活動性EBウイルス感染症など) 腎・代謝科:腎臓病、副甲状腺疾患、水・電解質異常(尿崩症など) 小児外科:難治性消化器疾患(ヒルシュプルング病類縁疾患、慢性仮性腸閉塞等) 脳神経外科:小児脳神経外科全般 耳鼻咽喉科:小児耳鼻咽喉科疾患全般			

がん相談支援センター窓口情報

問い合わせ窓口	窓口があります (窓口があります・窓口がありません)			
窓口名	患者相談窓口			
電話番号	代表	0725-56-1220	内線	2124 直通 0725-56-7355
対応時間	曜日	月～金	時間	9時00分～17時00分
	曜日		時間	時 分～ 時 分
対面相談	対応の可否	可	(可・否)	
	個室の有無	有	(有・無)	
	個室の数	1	室	
電話相談	対応の可否	可	(可・否)	
電話番号	代表	0725-56-1220	内線	2124 直通 0725-56-7355
FAX相談	対応の可否	否	(可・否)	
相談用のFAX番号	直通			
電子メール相談	対応の可否	否	(可・否)	
相談用のアドレス				
がん相談支援センターからのメッセージ (200字以内)	当院のスタッフは小児患者への専門家です。小児がんに関する悩みがありましたら、何でも結構ですので、患者相談窓口にご連絡ください。患者さんの相談内容に応じて、小児専門看護師、心理士、保健師、MSWが対応します。			
最も力を注いでいる相談支援の内容				

先進医療窓口情報

先進医療の実施	実施していません		(実施しています・実施していません)	
第2項先進医療	問い合わせ窓口	窓口がありません		(窓口があります・窓口がありません)
	窓口名			
	技術名			
	電話番号	代表		内線
		直通		
	対象となる病名・病状			
第3項先進医療	実施件数(2013年4月1日～2013年8月31日)			件
	問い合わせ窓口	窓口がありません		(窓口があります・窓口がありません)
	窓口名			
	技術名			
	電話番号	代表		内線
		直通		
	対象となる病名・病状			
	実施件数(2013年4月1日～2013年8月31日)			件

臨床試験窓口情報

問い合わせ窓口	窓口があります		(窓口があります・窓口がありません)	
窓口名	疫学・統計Consultation Service			
電話番号	代表	0725-56-1220	内線	3244
			直通	
対応時間	曜日	月～金	時間	9時00分～ 17時30分
	曜日		時間	時 分～ 時 分

治験窓口情報

問い合わせ窓口	窓口があります		(窓口があります・窓口がありません)	
窓口名	治験推進室			
電話番号	代表	0725-56-1220	内線	3244
			直通	0725-56-1260
対応時間	曜日	月～金	時間	9時00分～ 17時30分
	曜日		時間	時 分～ 時 分

別紙10 小児がん患者及びその家族が語り合うための場の設定状況

病院名: 大阪府立母子保健総合医療センター

(小児がん患者の遊びの場(プレイルーム等)やAYA世代の交流・勉強の場、患者家族が語り合うための場(患者サロン等)について記載すること。さらにおもちゃ・図書・パソコン・運動設備等の有無、保育士等の配置などについても記載すること。必要に応じて写真を貼付することも可。2枚以内におさめること。)

病棟には保育士が2名配置されており、月曜日～金曜日に勤務している。

プレイルームは保育士による設定保育や患者・家族同士の交流の場となっている。

また、保育士は各病室を回り、ベッドサイドにおいても発達段階に応じた遊びの提供をしている。

プレイルームにはおもちゃやDVD、テレビ、本を設置しており、子ども・家族が自由に使用できる。

毎週金曜日は移動図書館が病棟巡回する。

1名のホスピタルプレイ士が初発または初めてこの病院に入院してきた4歳以上の患者を対象に検査・手術のプレパレーションや遊びの提供などを行っている。

また、週1回の病棟カンファレンスと申し送りに参加し、中学生以上の全患者と関わり、

必要があれば遊びやプレパレーションの提供をしている。

月に2回クリニック라운の訪問がある。

院内ボランティアが月に2回病棟を訪問し、遊びを提供している(エプロンママ)。

4階西棟に入院していた家族によるボランティア(スマイルパンプキン)も月2回訪問し、遊びの提供や季節を感じる事ができる催し物をしている。

高校生以上の患者の学習場所としてカンファレンスルームを提供している。

高校の訪問授業も行っている。

親と子の図書館



病棟プレイルーム



AYA世代の交流の場所として、中学生以上の子ども達を対象にした青少年ルームがある。

病棟から離れた場所に、自由に好きなことができるリラックスした環境を提供している。DVDやインターネットパソコンを設置し、自由に調べものや鑑賞ができる。また、テレビ、漫画3000冊、卓球台、台所などが設置され、子ども病院のなかで、孤立しがちな思春期および若年成年(AYA)世代の患者に家庭的な空間を提供している。

利用対象者は中学生以上で自分で自分のことができる患者さんで、医師が利用可能の指示を出す。

利用可能日は平日の11時～12時であるが、曜日を限定して夜間の利用も可能である。

月曜日、水曜日: 18時30分～20時30分、

火曜日、木曜日、金曜日: 17時～18時

土曜日: 13時30分～16時

平日はホスピタルプレイ士が常在し、月・水の夜は院内職員ボランティアが常在している。土曜日は元職員ボランティアが子ども達の見守りをしている。

青少年ルーム



別紙11 小児がん患者及びその家族が語り合うための場

病院名: 地方独立行政法人 大阪府立病院機構 大阪府立母子

語り合うための場総件数: 2

患者さんやご家族が語り合うための場							
1	主催者名	4階西病棟		参加対象者	病名	小児がん等	
	問い合わせ窓口	看護師長			院外からの参加	参加不可	(参加可・参加不可)
	電話番号				患者・家族	家族のみ	(患者・家族)
	代表	0725-56-1220	内線	3450	活動状況	年2回	
	直通				病院職員の関与	あり	(あり・なし)
	主な活動状況	亡くなった患者の家族を対象にした語り合いの場を提供している。					
2	主催者名			参加対象者	病名		
	問い合わせ窓口				院外からの参加		(参加可・参加不可)
	電話番号				患者・家族		(患者・家族)
	代表		内線		活動状況		
	直通				病院職員の関与		(あり・なし)
	主な活動状況						
3	主催者名			参加対象者	病名		
	問い合わせ窓口				院外からの参加		(参加可・参加不可)
	電話番号				患者・家族		(患者・家族)
	代表		内線		活動状況		
	直通				病院職員の関与		(あり・なし)
	主な活動状況						
4	主催者名			参加対象者	病名		
	問い合わせ窓口				院外からの参加		(参加可・参加不可)
	電話番号				患者・家族		(患者・家族)
	代表		内線		活動状況		
	直通				病院職員の関与		(あり・なし)
	主な活動状況						

別紙11 小児がん患者及びその家族が語り合うための場

5	主催者名			参加対象者	病名		
	問い合わせ窓口				院外からの参加		(参加可・参加不可)
	電話番号				患者・家族		(患者・家族)
	代表		内線		活動状況		
	直通				病院職員の関与		(あり・なし)
	主な活動状況						

院内の図書室や図書室以外の場所に図書等が設置されている情報					
	院内図書室		院内図書室以外		
名称	親と子のとしょかん				
電話番号	代表	0725-56-1220	代表		
	内線	3252	内線		
	直通		直通		
開室時間	曜日	月～土	曜日		
	時間	9時 00分～ 17時 30分	時間	時 分～ 時 分	
	曜日		曜日		
	時間	時 分～ 時 分	時間	時 分～ 時 分	
ホームページ	http://www.mch.pref.osaka.jp/planning/05/librar				
利用対象者	入院患者さんやそのご家族				
利用可能な資料	児童用図書(絵本・知識の本・よみもの・紙芝居など)とおとな用図書(病気に関する本・小説・闘				
利用可能な機器	インターネット				
対応職員の職種	司書				
ピアサポーターによる対応	未実施				(実施・未実施)

別紙12 小児がん患者及びその家族を対象とした小児がんに関する勉強会等の開催実績

病院名: 地方独立行政法人 大阪府立病院機構 大阪府立

開催された勉強会等の総件数: 3

(患者や家族等を対象とした小児がんに関する勉強会等の開催実績について記載すること。別紙18の記載内容と一部重複しても構いません。)

名称	主催者 例 〇〇病院、〇〇の会	参加対象者 例 患者、家族等	内容	開催頻度 例 年に3回、週に1回、不定期
1 光明池セミナー	当センター・羽曳野支援学校	患者・家族、一般市民	小児がん全般に関する啓蒙的内容	年に1回
2 小児がんセミナー	がんの子どもを守る会	患者・家族	小児がん全般に関する啓蒙的内容	年に1回
3 移植講演会	当センター血液・腫瘍科	患者・家族	造血幹細胞移植について	年に1回
4				
5				
6				
7				
8				
9				
10				

小児脳腫瘍

病院名: 病院

集学的治療の実施状況 ○ (○:実施/×:未実施)

※診療を実施していないがんについて、表の記載は不要

当該疾患の診療を担当している 診療科名と医師数				治療の実施状況(○:実施可/×:実施不可) 昨年の実績(あり/なし) ※平成24年1月1日~12月31日						各診療科における 当該疾患の治療の 特色・患者さんへの メッセージなど	当該疾患の治療に関する内容が 掲載されているページ				
主な診療科名 (5診療科まで)	医師数	当該疾患を専門として いる医師数	手術	化学療法	放射線療法				ページのタイトルとアドレス ※トップページ以外を2つまで記載してください ※アドレスは、手入力せずにホームページからコピーしてください		掲載されている内容				
					体外照射	定位放射線療法	IMRT	小線源治療			治療内容	治療実績	医師の専門分野		
1 脳神経外科	3	3	状況	○	×	×	×	×	×		タイトル	主な対象疾患	掲載あり	掲載あり	掲載あり
			実績	あり	なし	なし	なし	なし	なし		アドレス	http://www.mch.pref.osakajp/hospital/department/nous			
2 血液・腫瘍科	8	8	状況	×	○	×	×	×	×		タイトル	難治性小児がんに対する造血幹細胞移植	掲載あり	掲載あり	掲載あり
			実績	なし	あり	なし	なし	なし	なし		アドレス	http://www.mch.pref.osakajp/hospital/department/ketu			
3 放射線科	2	2	状況	×	×	○	○	○	×		タイトル				
			実績	なし	なし	なし	なし	あり	なし		アドレス				
4			状況								タイトル				
			実績								アドレス				
5			状況								タイトル				
			実績								アドレス				

小児の眼・眼窩腫瘍

集学的治療の実施状況 ○ (○:実施/×:未実施)

※診療を実施していないがんについて、表の記載は不要

当該疾患の診療を担当している 診療科名と医師数				治療の実施状況(○:実施可/×:実施不可) 昨年の実績(あり/なし) ※平成24年1月1日~12月31日							各診療科における 当該疾患の治療の 特色・患者さんへの メッセージなど	当該疾患の治療に関する内容が 掲載されているページ					
主な診療科名 (5診療科まで)	医師数	当該疾患を専門として いる医師数		手術	冷凍凝固術	光凝固術	化学療法	眼動注	放射線療法			ページのタイトルとアドレス ※トップページ以外を2つまで記載してください ※アドレスは、手入力せずにホームページからコピーしてください	掲載されている内容				
									体外照射	IMRT			小線源治療	治療内容	治療実績	医師の専門分野	
1 眼科	11	11	状況	○	○	○	×	×	×	×	×	眼・眼窩腫瘍に対する放射線治療は二次がん発生率が高いため、当センターでは行っておりません。	タイトル		掲載なし	掲載あり	掲載あり
			実績	あり	あり	あり	なし	なし	なし	なし	なし		なし	アドレス	http://www.mch.pref.osakajp/hospital/department/gank	タイトル	
2 血液・腫瘍科	8	8	状況	×	×	×	○	×	×	×	×		タイトル	難治性小児がんに対する造血幹細胞移植	掲載あり	掲載あり	掲載あり
			実績	なし	なし	なし	あり	なし	なし	なし	なし		なし	アドレス	http://www.mch.pref.osakajp/hospital/department/ketu	タイトル	骨髄非破壊的移植(RIST)
3			状況										タイトル				
			実績											アドレス		タイトル	
4			状況										タイトル				
			実績											アドレス		タイトル	
5			状況										タイトル				
			実績											アドレス		タイトル	

小児悪性骨軟部腫瘍

集学的治療の実施状況 ○ (○:実施/×:未実施)

※診療を実施していないがんについて、表の記載は不要

当該疾患の診療を担当している 診療科名と医師数				治療の実施状況 (○:実施可/×:実施不可) 昨年の実績 (あり/なし) ※平成24年1月1日～12月31日								各診療科における 当該疾患の治療の 特色・患者さんへの メッセージなど	当該疾患の治療に関する内容が 掲載されているページ				
主な診療科名 (5診療科まで)	医師数	当該疾患を専門として いる医師数	状況	手術				放射線療法					ページのタイトルとアドレス ※トップページ以外を2つまで記載してください ※アドレスは、手入力せずにホームページからコピーしてください	掲載されている内容			
				切・離断術	患肢温存術	再建術	骨移植術	化学療法		体外照射	小線源治療			治療内容	治療実績	医師の専門分野	
1 整形外科	19	19	状況	○	○	○	○	×	×	×	×		タイトル				
			実績	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし		タイトル				
2 血液・腫瘍科	8	8	状況	×	×	×	×	○	○	×	×		タイトル	難治性小児がんに対する造血幹細胞移植	掲載あり	掲載あり	掲載あり
			実績	なし	なし	なし	なし	あり	あり	なし	なし		アドレス	http://www.mch.pref.osaka.jp/hospital/department/ketu	掲載あり	掲載あり	掲載あり
3 放射線科	2	2	状況	×	×	×	×	×	×	○	×		タイトル				
			実績	なし	なし	なし	なし	なし	なし	あり	なし		アドレス				
4			状況										タイトル				
			実績										アドレス				
5			状況										タイトル				
			実績										アドレス				

その他の小児固形腫瘍

集学的治療の実施状況 ○ (○:実施/×:未実施)

※診療を実施していないがんについて、表の記載は不要

当該疾患の診療を担当している診療科名と医師数				治療の実施状況(○:実施可/×:実施不可) 昨年の実績(あり/なし) ※平成24年1月1日~12月31日				各診療科における当該疾患の治療の特色・患者さんへのメッセージなど	当該疾患の治療に関する内容が掲載されているページ				
主な診療科名 (5診療科まで)	医師数	当該疾患を専門としている医師数	手術	化学療法	放射線療法		ページのタイトルとアドレス ※トップページ以外を2つまで記載してください ※アドレスは、手入力せずにホームページからコピーしてください		掲載されている内容				
					体外照射	小線源治療			治療内容	治療実績	医師の専門分野		
1 血液・腫瘍科	8	8	状況	×	○	×	×	難治性小児がんに対する造血幹細胞移植	タイトル	http://www.mch.pref.osakajp/hospital/department/ketu	掲載あり	掲載あり	掲載あり
			実績	なし	あり	なし	なし		タイトル		骨髄非破壊的移植(RIST)	http://www.mch.pref.osakajp/hospital/department/ketu	
2 小児外科	7	5	状況	○	×	×	×	小児固形腫瘍の外科治療を担当しています。小児病院の中でも特に小児がん治療に力を入れており、臨床研究グループや他院からの症例コンサルトも受けています。	タイトル	http://www.mch.pref.osakajp/hospital/department/shou	掲載あり	掲載なし	掲載あり
			実績	あり	なし	なし	なし		タイトル				
3 放射線科	2	2	状況	×	×	○	×		タイトル	http://www.mch.pref.osakajp/hospital/department/hous	掲載あり	掲載なし	掲載あり
			実績	なし	なし	あり	なし		タイトル				
4 検査科・病理	2	2	状況	×	×	×	×		タイトル	http://www.mch.pref.osakajp/hospital/department/kens	掲載あり	掲載あり	掲載あり
			実績	なし	なし	なし	なし		タイトル				
5			状況						タイトル				
			実績						タイトル				

小児血液腫瘍

集学的治療の実施状況 ○ (○:実施/×:未実施)

※診療を実施していないがんについて、表の記載は不要

当該疾患の診療を担当している診療科名と医師数				治療の実施状況 (○:実施可/×:実施不可) 昨年の実績 (あり/なし) ※平成24年1月1日～12月31日						各診療科における当該疾患の治療の特色・患者さんへのメッセージなど	当該疾患の治療に関する内容が掲載されているページ				
主な診療科名 (5診療科まで)	医師数	当該疾患を専門としている医師数	化学療法	移植			放射線療法		ページのタイトルとアドレス ※トップページ以外を2つまで記載してください ※アドレスは、手入力せずにホームページからコピーしてください		掲載されている内容				
				自家末梢血幹細胞移植	血縁者間同種造血幹細胞移植	非血縁者間同種骨髄移植または臍帯血移植	体外照射	全身照射			治療内容	治療実績	医師の専門分野		
1	血液・腫瘍科	8	8	状況	○	○	○	○	○	移植関連合併症を軽減する目的と、免疫療法としての移植を目的として、同種移植を骨髄非破壊的前処置で行っています。子どもに対する造血幹細胞移植実績は全国	タイトル	難治性小児がんに対する造血幹細胞移植	掲載あり	掲載あり	掲載あり
				実績	あり	なし	あり	あり	なし		アドレス	http://www.mch.pref.osaka.jp/hospital/department/ketu	掲載あり	掲載あり	掲載あり
2				状況							タイトル				
				実績							アドレス				
3				状況							タイトル				
				実績							アドレス				
4				状況							タイトル				
				実績							アドレス				
5				状況							タイトル				
				実績							アドレス				

病院名: 地方独立行政法人 大阪府立病院機構 大阪府立母子保健総合医療

	平成22年(平成22年1~12月) 診断例(※)	平成23年(平成23年1~12月) 診断例(※)	平成24年(平成24年1~12月) 診断例(※)
造血器腫瘍合計	18	18	38
ALL	6	7	8
AML	0	2	7
まれな白血病	0	0	0
MDS/MPDのうちCML	1	0	2
MDS/MPDのうちCMLを除く	0	2	3
Non-Hodgkin Lymphoma	1	0	2
Hodgkin Lymphoma	0	1	1
その他のリンパ増殖性疾患	5	6	11
組織球症(HLH)	2	0	1
組織球症(LCH)	3	0	3
その他の組織球症	0	0	0
その他の造血器腫瘍	0	0	0
Down症TAM 登録	0	0	0
固形腫瘍合計	19	25	25
神経芽腫瘍群	2	4	3
網膜芽腫	2	1	4
腎腫瘍	0	3	0
肝腫瘍	0	3	5
骨腫瘍	0	0	0
軟部腫瘍	2	1	3
胚細胞腫瘍	4	3	4
脳・脊髄腫瘍	7	9	4
その他 (診断名も記載すること)	2(原発不明神経内分泌癌、仙尾部退形成性上衣腫を伴う粘液乳頭状上衣腫)	1(腭体部充実性偽乳頭状腫瘍)	2(鼻咽頭リンパ上皮癌、膀胱三角尿路上皮癌)

※18歳以下の初発診療例とする。セカンドオピニオンは除く。

別紙15 小児がんに関するカンファレンスや勉強会等の開催状況

病院名: 地方独立行政法人 大阪府立病院機構 大阪府立母子保健総合医療

開催されたカンファレンス等の総件数: 4

(平成25年1月～11月の医療従事者等を対象とした小児がんに関するカンファレンスや勉強会等の開催状況について記載すること。)

開催年月日	名称	参加対象者 (自施設外の者も参加可能であればその旨記載すること。)	内容	
1	平成25年2月28日	Advances in Pediatric Hematology/Oncology	全職員	小児がんのこどもと家族にとっての理想を考える。
2	平成25年6月18日	小児がん拠点病院指定記念研修会	全職員	今後目指すべき理想の小児がん医療について考える。
3	平成25年10月2日	大阪小児固形腫瘍研究会	医師、自施設以外の医師も参加	小児がんに対する取り組みとがんに対する免疫療法について。
4	平成25年10月19日	近畿ブロック小児がん講演会	医師:近畿ブロック小児がん拠点病院、診療病院	がんに対する創薬について。
5				
6				
7				
8				
9				

別紙15 小児がんに関するカンファレンスや勉強会等の開催状況

10				
11				
12				
13				
14				
15				
16				
17				
18				
19				
20				

別紙16 小児がんに関する研修プログラムの状況

病院名: 地方独立行政法人 大阪府立病院機構 大阪府立母子保健

プログラムの総件数: 2

プログラム名	期間	対象者	受け入れ人数					H21年度以降のプログラム修了者	H21年度以降プログラム修了者の現在の勤務先				プログラムの特徴	
	例 2年	例 医師卒後 〇年～〇年	H21 年度	H22 年度	H23 年度	H24 年度	H25 年度		自施設	自施設以外				
										大学 病院	小児 病院	それ以 外の総 合病院		その他
1 小児血液・がん、造血幹細胞移植研修	1-2年	医師卒後5年以降	1	1	1	1	1	4	1	2	0	0	医学部大学院: 1	小児血液・がん、移植専門医育成コース
2 小児血液・がん、造血幹細胞移植研修短期コース	4ヵ月-6ヵ月	医師卒後3年以降	4	1	2	3	2	11	6	2	0	3	0	小児血液・がん、移植診療のミニマムを短時間で集中的に教育するコース
3														
4														
5														

病院名：地方独立行政法人 大阪府立病院機構 大阪府立母子保健総合医

(がん相談支援センターの名称、体制、メンバーについて記載すること。個人情報に記載しないよう注意すること。)

がん相談支援センターの情報

がん相談支援センターの名称		地域医療連携室（患者相談窓口）	
がん相談支援センターのメンバー			
	職種	常勤／非常勤	相談業務の経験年数
1	医師	常勤	1.5
2	看護師	常勤	1.5
3	ケースワーカー	常勤	3
4	保健師	常勤	1.5
5	心理士	常勤	1.5
6			
7			
8			
9			
10			
相談件数		35	件

地域の患者会の情報

情報提供可能な患者会の数	3	件
参加対象の疾患名	小児がん全般、および脳腫瘍	

別紙18 小児がん患者団体との連携協力

病院名: 地方独立行政法人 大阪府立病院機構 大阪府立母子保健総合医療

団体総件数: 3

(小児がん患者団体との連携協力(患者の交流会、勉強会、相談支援、講演会等)があれば記載すること。別紙12の記載内容と一部重複しても構いません。)

小児がん患者団体			具体的な連携協力の内容 (例: 月1回患者交流会を開催している。市民講演会に演者として参加してもらっている。)
団体名	団体の参加対象者		
1	がんの子どもを守る会	小児がん患者・家族の会	随時、相談会、講演会に協力している。
2	つばさの会	白血病・リンパ腫患者・家族の会	随時、相談会、講演会に協力している。
3	リレー・フォーライフ	がん患者・家族の会	イベントに参加し、対談など企画・実施に協力している。
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			

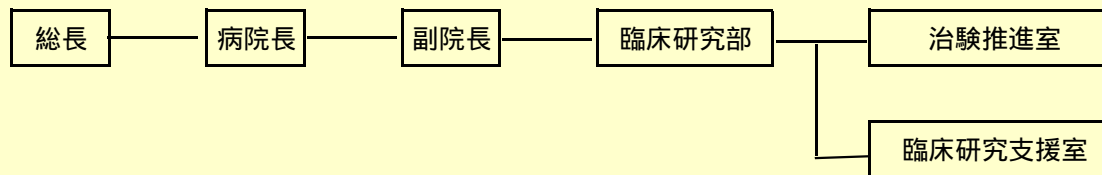
別紙19 臨床研究を支援する専門の部署の組織・体制

病院名: 大阪府立母子保健総合

(臨床研究を支援する専門の部署について、名称、組織について記載すること。個人情報を記載しないよう注意すること。1枚におさめること。)

部署の名称 臨床研究部

部署の組織図



別紙20 臨床研究を支援する専門の各部門のメンバー

病院名: 地方独立行政法人 大阪府立病院機構 大阪府立母子保健総合医療

各部門のメンバー(個人情報に記載しないよう注意すること)

メンバー総人数: 9人(兼務含む)

各部門名		各部門のメンバーの専門性・職種
例	事務部門、データセンター部門、コーディネーター部門、治験管理室	薬事専門家、CRC、リサーチ・コンシェルジェ、生物統計家、事務担当
1	臨床研究部治験推進室	医師、薬事専門家、CRC、事務担当
2	臨床研究部臨床研究支援室	医師、事務担当、生物統計家
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		

別紙21 臨床研究の実施状況

病院名: 地方独立行政法人 大阪府立病院機構 大阪

臨床研究の実施総件数: 41

(平成20年1月以降の臨床研究の実施状況について記載すること)

試験公開年月	疾患名	試験名 (倫理審査で承認を得ていたり、その他対外的な申請に用いた試験名がある場合、その試験名を正式なものとして、この欄に入力)	研究代表者所属	実施診療科	目標症例数 (すでに募集を終了した試験、試験が終了している場合は実際の登録数)	進捗状況 (募集前、一般募集中、限定募集中、参加者募集中断、参加者募集終了-試験継続中、試験中止、試験終了)	多施設との協力について (JPLSGなど臨床研究グループが関与している場合はその旨記載すること)
20年3月	EBウイルス関連リンパ系腫瘍	エプスタイン・バーウイルス特異的細胞傷害性Tリンパ球の臨床応用に関する研究	血液・腫瘍科	血液・腫瘍科	20	試験継続中	英国バーミンガム大学との共同研究
20年3月	小児がん	骨髄非破壊的造血幹細胞移植におけるGVHD予防法の検討:シクロスポリンの最適投与方法について	血液・腫瘍科	血液・腫瘍科	30	試験継続中	自施設単独研究
20年10月	神経芽腫	神経芽腫患者骨髄又は生検材料から癌幹細胞の樹立と神経芽腫の骨髄内homingの解析	血液・腫瘍科	血液・腫瘍科	10	試験継続中	自施設単独研究
20年10月	白血病	ダウン症候群に発症した小児急性骨髄性白血病に対するリスク別多剤併用化学療法の後期第II相臨床試験(AML-D05)	血液・腫瘍科	血液・腫瘍科	10	試験継続中	JPLSG
21年3月	腎芽腫	腎芽腫における腎温存手術の実現可能性と長期的有用性に関する第I/II相試験	泌尿器科	泌尿器科	20	試験継続中	多施設共同研究
21年10月	白血病	小児血液腫瘍患者の造血幹細胞移植ドナーとなった家族の意思決定と心理社会的適応に関する研究	血液・腫瘍科	血液・腫瘍科	20	試験終了	多施設共同研究
21年10月	小児がん	造血幹細胞移植後女兒の骨密度減少に対する女性ホルモン補充療法の効果に関する検討	小児婦人科	小児婦人科	30	試験終了	自施設単独研究
22年3月	白血病	小児急性白血病の各種微小残存病変(MRD)の臨床的意義に関する研究	血液・腫瘍科	血液・腫瘍科	40	試験継続中	自施設単独研究

別紙21 臨床研究の実施状況

9	22年3月	脳腫瘍	頭蓋内ジャーミノーマ(低/中間リスク胚細胞腫瘍)に対する化学療法プロトコール	脳神経外科	脳神経外科	50	試験継続中	日本小児脳腫瘍コンソーシアム
10	22年3月	脳腫瘍	頭蓋内ジャーミノーマ(高リスク胚細胞腫瘍)に対する化学療法プロトコール	脳神経外科	脳神経外科	20	試験継続中	日本小児脳腫瘍コンソーシアム
11	22年3月	小児がん	難治性小児がん患者の家族が経験する課題および期待される支援の探索	血液・腫瘍科	血液・腫瘍科	200	試験継続中	多施設共同研究
12	22年3月	奇形腫	胎児仙尾部奇形腫の実態把握・治療指針作成に関する研究	小児外科	小児外科	10	試験継続中	多施設共同研究
13	22年9月	小児がん	小児がん患者のきょうだいへの支援—病状説明ツール作成についての検討—	看護部	看護部	50	試験終了	自施設単独研究
14	22年9月	小児がん	治療抵抗性の小児固形腫瘍患者に対するペバシズマブの使用	血液・腫瘍科	血液・腫瘍科	2	試験終了	自施設単独研究
15	23年3月	小児がん	シクロホスファミド移植後早期投与による宿主臓器反応性リンパ球のclonal deletion: HLAハプロ一致の同種造血幹細胞移植後における移植片対宿主予	血液・腫瘍科	血液・腫瘍科	15	試験継続中	自施設単独研究
16	23年9月	白血病	日本小児白血病リンパ腫研究グループ(JPLSG)における小児血液腫瘍疾患を対象とした前方視的疫学研究	血液・腫瘍科	血液・腫瘍科	150	試験継続中	JPLSG
17	23年9月	デスモイド腫瘍	治療抵抗性のデスモイド腫瘍に対するイマチニブの使用	血液・腫瘍科	血液・腫瘍科	1	試験終了	自施設単独研究
18	23年9月	白血病	小児急性リンパ性白血病標準リスク群の治療による認知発達への影響について	血液・腫瘍科	血液・腫瘍科	90	試験継続中	多施設共同研究
19	23年9月	小児がん	難治性悪性腫瘍に対する $\alpha\beta$ TCR/CD19陰性造血幹細胞移植および $\alpha\beta$ TCR/CD19陰性細胞輸注療法に関する臨床研究	血液・腫瘍科	血液・腫瘍科	10	試験継続中	自施設単独研究
20	23年9月	小児がん	$\alpha\beta$ TCR/CD19陰性造血幹細胞移植に関する臨床研究	血液・腫瘍科	血液・腫瘍科	20	試験継続中	自施設単独研究

別紙21 臨床研究の実施状況

臨床研究以外の研究実施総件数:

2

(平成20年1月以降の臨床研究以外の小児がんに関連する研究(特にトランスレーショナルリサーチ)の実施状況について記載すること。)

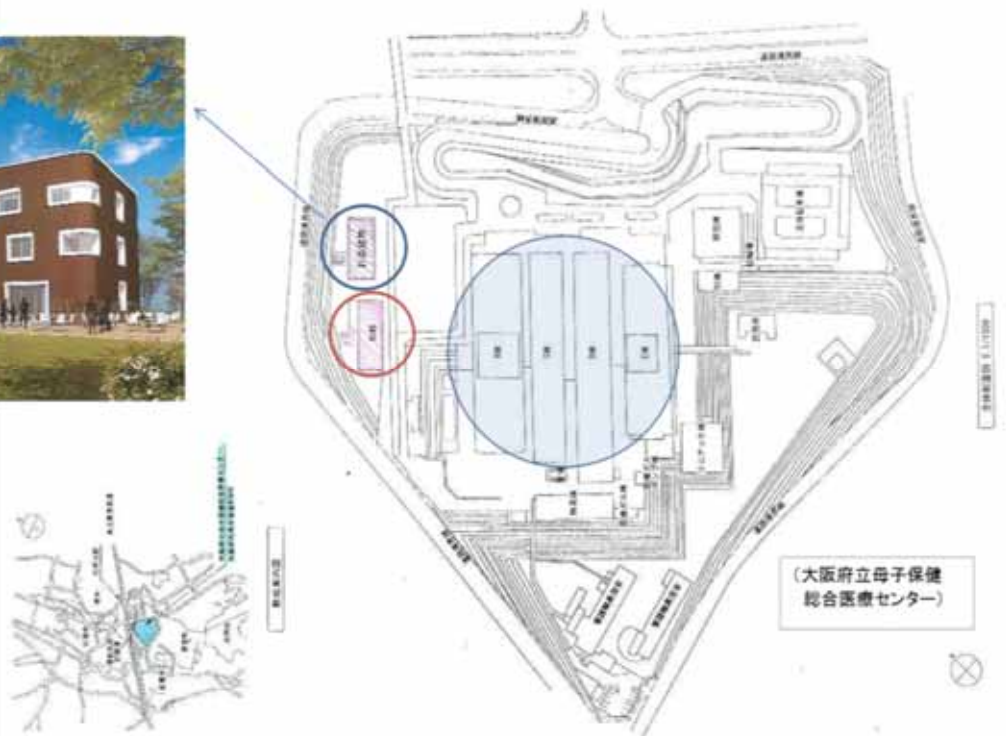
研究開始時期	研究名	研究代表者・所属	実施診療科	研究概要
1	22年3月 ヒト骨髄由来未分化組織幹細胞の同定とその特性解明	血液・腫瘍科	血液・腫瘍科	骨髄中に存在する未分化組織幹細胞を長期継代培養、表面抗原解析、分子遺伝学的解析を用いて同定し、細胞特性を研究し、ひいては白血病幹細胞研究へと発展させる基礎的研究
2	24年3月 治験の際に行われる薬理遺伝学研究について	血液・腫瘍科	血液・腫瘍科	新規薬剤治験の際に、その薬剤の代謝に関与すると考えられる遺伝子を特定するために網羅的にエクソンを解析する研究。
3	年月			
4	年月			
5	年月			
6	年月			
7	年月			
8	年月			
9	年月			
10	年月			

病院名: 大阪府立母子保健総合医療センター

(病院からの距離、施設内の設備(調理スペース、ランドリー、プレイルーム等)、人の配置等について記載すること。必要に応じて写真を貼付することも可。1枚におさめること。)

図1

新ファミリーハウス



現ファミリーハウス

1. 施設概要

- ・RC造地上2階建ての一部(2階部分) 昭和54年建築 延床面積270㎡ 病院敷地内に設置(図1 赤印参照)
- ・専用部分 宿泊室6室(和室のみ)
- ・共用部分 風呂、トイレ、ランドリー、キッチン、談話室

2. 人員配置

- ・ファミリーハウス専任者はなし。事務局 総務・人事グループに業務担当として1名

新ファミリーハウス

1. 施設概要

- ・RC造地上3階建て 平成25年12月末竣工予定 延床面積1256.02㎡ 病院敷地内に設置(図1 青印参照)
- ・専用部分 宿泊室12室(洋室ツイン5室 うち車いす対応部屋1室、洋室シングル4室、和室3室)
- ・共用部分 ダイニングキッチン、パソコンラウンジ、多目的室、プレイルーム、絵本コーナー、ランドリー、多目的トイレ、ホワイエ
- ・管理部門 事務室、リネン庫、倉庫等

2. 人員配置

- ・新ファミリーハウス内事務室に専任者1名ないし2名常駐

3. 開設時期

- ・平成26年3月オープン予定